

令和5年度 高大連携授業（前期）授業要目<科目概要>
シラバス

■従来型授業

□単位取得予約型授業

実施形態	対面授業	大学等名	秋田県立大学 本荘キャンパス
科目名 (サブタイトル)	[26] ヨーロッパ・ミュージアム建築の旅	科目担当者 (学部・学科・職・氏名)	システム科学技術学部 建築環境システム学科 准教授 込山 敦司 (計1名)
授業概要	ミュージアムは建築そのものが特色ある作品であり、芸術作品を展示保管するために、機能的にも対応した空間が求められます。今回は、ドイツを中心としたヨーロッパの事例を旅しながら、その魅力にふれていただく機会とします。		
授業方針	令和3年度及び令和4年度の内容を、若干アップデートしたものになります。以前受講した方はご注意ください。		
会場・教室	カレッジプラザ 小講義室2		
会場住所	秋田市中通2丁目1-51 明德館ビル2階		
欠席連絡先	秋田県立大学 本荘キャンパス (平日9:00~17:00) 電話: 0184-27-2071 E-mail: honjokyomu@akita-pu.ac.jp		
授 業 計 画			
<p>【募集定員人数：10名】 先着順で募集を締め切ります</p> <p>第1講：「歴史あるミュージアム建築の魅力 (1) 伝統的な空間の改修と活用」 <6月10日 (土) 13:20~14:50> ルーブル美術館 (フランス、パリ)、ウフィッツィ美術館 (イタリア、ミラノ)、アムステルダム国立美術館 (オランダアムステルダム) を題材に、建築の特徴と、改修や増築の際の建築家の提案について解説します。</p> <p>第2講：「歴史あるミュージアム建築の魅力 (2) 歴史を活かし新しい空間をつくる」 <6月10日 (土) 15:00~16:30> シュテッデル美術館 (ドイツ、フランクフルト) などを題材に、長年にわたって増築を繰り返してきた歴史あるミュージアムについて、増築の際の思想や、街との関係、市民の居場所の工夫などについて解説します。</p> <p>第3講：「ミュージアム建築のアイデアと建築家の模索-ホワイトキューブを超えて」 <6月17日 (土) 13:20~14:50> 単に白い箱 (ホワイトキューブといいますが) をつくれば便利でよいのか? 光や風景との対話、あえて彫刻作品のようにした建築など、作品と向き合うだけではない、視覚体験や展示方法を模索した (させる) 建築を中心に、解説を行います。</p> <p>第4講：「ある芸術家、ある作品、ある街のための特別な空間」 <6月17日 (土) 15:00~16:30> 特に重要な芸術作品と向き合うための特別な空間が、建築に求められることがあります。秋田県立美術館の「秋田の行事」のための空間などを例にあげることができます。また、街の歴史資源などをテーマにした展示空間では、街や歴史遺産との関係も考えられています。この回では、そうした事例をご紹介します。</p>			
その他			
テキスト			
参考文献			
関連科目			